

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
解剖学演習		選択	1	1.2.3.4	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
志茂 聡 他	D305	sakamoto	木曜日 10:00~13:00		
授業の目的・概要	人体の運動器と神経系を中心に、解剖学や他の基礎・専門科目で学んだ知識を確認し、代表的な障害や疾患の原因を理解できるレベルに高める。メディア Microsoft Teams 上での解剖標本動画等を活用しながら、体の部位ごとに、関節および筋について構造と機能を解説する。同様に中枢神経の内部構造や、末梢神経走行や筋支配について立体的に理解できことを目的とする。これらの内容について、課題学習等を通して理解するとともに、授業における Teams を利用した意見交換や、提出課題に対するフィードバックを活用して包括的な理解につなげる。				
学習上の助言	各回提示されるプリント課題と標本の観察を並行して進めてほしい。				
教科書	次の2冊のうちどちらか1冊を用意すること 解剖学アトラス 原著第10版 / 著: Platzer Fritsch, Kühnel Kahle, Frotscher 訳: 平田幸男 / 文光堂 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 / 監修: 奈良勲, 鎌倉矩子, 編: 野村巖 / 医学書院				
参考書	特に指定しない。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	人体各部の筋の配置を理解し、解剖学用語を正しく使える。			HSU (2)、PT(2)、(3)、OT(2)	
②	人体各部の関節の構造を理解し、解剖学用語を正しく使える。			PT(2)、(3)、OT(2)	
③	脳の断面と全体との関係を理解する。			PT(2)、(3)、OT(2)	
④	脊髄と脊髄神経について立体的に理解する。			PT(2)、(3)、OT(2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)		
1	脊柱の復習と脊柱に見られる連結： 椎間円板、椎間関節、環軸関節を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
2	脊柱に付く筋： 固有背筋、椎前筋、頸部の筋を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
3	胸郭を構成する骨と胸郭に見られる連結：肋椎関節、胸肋関節、胸鎖関節、さらに胸郭の筋：肋間筋群、肋骨挙筋、胸横筋、横隔膜を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
4	上肢帯の骨と上肢帯の連結：肩鎖関節、肩関節および上肢帯筋について理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
5	自由上肢骨と自由上肢骨間の連結、自由上肢の筋を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
6	上肢の骨、骨の連結、筋さらに筋の神経支配を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
7	上肢の骨・筋のまとめ	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1.5
8	骨盤を構成する骨と骨盤に見られる連結、骨盤の筋を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
9	自由下肢骨と自由下肢骨間に見られる連結、自由下肢に見られる筋について理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
10	下肢の骨、骨の連結筋さらに筋の神経支配を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
11	下肢の骨・筋のまとめ	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
12	頭頸部の骨、骨の連結、筋を理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
13	中枢神経（脳と脊髄）と末梢神経の関係を立体的に理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
14	中枢神経の内部構造を断面で理解する。	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
15	神経系のまとめ	同時双方向型授業	参考書で予習・復習		1
試					

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	0	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	70	70
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	20	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各回授業に取り組んだ課題プリントを出題し、理解度を問う。授業終了時に課題プリントを完成させ提出する。評価方法は初回講義時に提示する。評価割合は100%とする。				添削・評価の後、返却
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎志茂 聡、坂本 宏史（各回2名で担当）</p> <p>教員の実務経験： 2名の担当教員は解剖学で博士号（医学）を取得しており、本学（専任教員）および山梨大学医学部（志茂は非常勤講師 令和2年現在）で長年解剖学の教育に携わってきた解剖学教育の専門家である。さらに、志茂は、作業療法士の国家資格と臨床経験10年を有する。</p> <p>実践的授業の内容： 解剖学における人体の構造に関わる項目の概念は、書物や視聴覚教材によって理解できると思うが、臨床時に応用できるまでの確固たる知識やイメージを獲得しにくい部分が多々ある。この授業では、実際に人体解剖に携わってきた教員により、経験に基づく様々な視点から人体の構造についての具体的な解説がなされるため、やがて臨床家となる受講者にとっては実際に即した知識を獲得でき、受講者の疑問への対応を通して、より実践的な教育を受けることができる。</p> <p>Microsoft Teams を用いた遠隔授業を行う。</p> <p>課題ダウンロード等があるので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。</p> <p>今後の社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。</p>							